

室
9/17

豊かな自然願い植樹

豊かな自然を後世に残そうという植樹イベントが十三日、白老町と苫小牧市で行われた。いずれも子供からお年寄りまでの参加。すすくと育つことを願いながら、約四百人が緑の環境づくりに汗を流した。



ラブアースの森

ハルニレなど400本

白老

北海道市民環境ネットワークが白老町のウヨロ環境トラストの協力で実施している「ラブアースの森づくり2008 in 白老」が同

日、白老町石山の同森で行われ、参加者が広葉樹の植樹を行った。今年三年目の事業。同トラストが所有している「トラストの森」の一部、緑の少ない砂利採取跡地で「ラブアースの森」と位置付け植樹を行っている。今回参加したのは、札幌圏を中心にした子どもから八十代のお年

寄りまで百五人。段ボール製のリサイクル植樹ポット「カミネッコ」開発者で北大名誉教授の東三郎氏が、北海道の森について話した後、参加者が一斉に

カミネッコン作りを開始。ポット内に三年生の広葉樹を入れ、出来上がり。樹種はカツラ、ハルニレ、アオタモなど五種類約四百本で、「ラブアースの森」に丁寧に植え込んだ。参加者たちは近くのウヨロ川でサケのそを観察なども行い、白老の豊かな自然を満喫した。(半澤豊彦)

段ボール製のリサイクル植樹ポット「カミネッコ」を作る参加者たち